

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104067		
法人名	医療法人 星の里会		
事業所名	グループホーム パラディース		
所在地	山口県下関市菊川町下岡枝164-1		
自己評価作成日	平成26年4月30日	評価結果市町受理日	平成27年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者主体に当たり前の生活を継続している中で、ここでの役割をそれぞれに持って頂き生きがいに近づけている。 職員が待つ姿勢で寄り添っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のフリーマーケットや産業祭に出店して利用者の作品である季節の飾り物や絵手紙を利用者と一緒に販売されています。夏祭りに参加した後は、利用者と職員が後片付けの手伝いをされる他、文化祭や敬老会、講演会など地域の行事にも参加されています。成人式の日には、利用者が描かれた絵手紙を出席した若者達へ式典でプレゼントされている他、商店街の一角にある事業所として、火災時の不安を考慮して近隣の銀行や郵便局などに対して合同避難訓練の実施に向けてアンケートを依頼され、回答をもとに災害時の協力体制について運営推進会議で話し合いをされるなど、事業所と地域とのつながりを深めるように取り組まれています。NHKのど自慢大会の予選会に出場されたり、講演会に出かけたり、フリーマーケット時に店長をするなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々に思いやりのある安心・安全な医療介護を提供します」という法人理念と共に、「利用者主体の生活を支援するべくサービスの提供」「ゆったりとした時間の中で」という事業所独自の方針を職員全員が常に意識し共有し、理念の実現に繋げ実践している。	法人の理念とともに、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を事業所内に掲示している。日々の業務の中で話し合い、管理者と職員は共有して、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の日常必要物品は、近くの店で買い物を一緒に行ったり、利用者主体のフリーマーケットを出店し、地域の方との交流を図っている。夏祭りや清掃活動、地元産業祭、ボランティアによる趣味の講座に参加し、地域と事業所の関わりを深めている。	自治会に加入している。地域のフリーマーケットや産業祭に出店し、利用者の作品である季節の飾り物や絵手紙を利用者と一緒に販売している。夏祭りに参加し、利用者と職員は一緒に後片付けもしている。文化祭や敬老会、講演会などの地域行事にも参加している。成人式の日には、利用者が描いた絵手紙を出席した若者達へ式典でプレゼントしている。ボランティア(絵手紙、コーラス、フラダンス、ピアノとギターの演奏)の来訪もある。スーパーでの買い物時や散歩時などに地域の人と挨拶を交わすなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加の地域の方や、ボランティアで来所された地域の方々へ、認知症の方への理解を現場で伝えている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、職員会議で評価の意義を説明し、理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでいる。それぞれの項目について日々のケアの振り返りや見直しを行い、課題について話し合い、サービス改善に向けて取り組んでいる。	月2回の職員会議で評価の意義について説明し、自己評価をするための書類に、全職員が記入してもらい、管理者と話し合いをしてまとめている。職員は日々の振り返りや見直しの機会と捉えている。前回の評価結果を受けて、自己評価の取り組み方の工夫について話し合う他、内部研修の充実に努めるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、状況や活動報告を日々撮影した画像をモニターで見て頂きながら、グループホームの生活を紹介している。そこで頂いた意見や助言は、職員会議等で話し合い、活かせるように努力している。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況報告、活動状況、インシデント報告、外部評価結果報告、合同避難訓練のアンケートの報告をして、守秘義務や熱中症についての講話をして意見交換している。消防分団長を招いて避難訓練時の話し合いを行い、避難訓練時の火元をその都度変えるなど、意見や提案を活かしている。	・家族メンバーの検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課とは、運営推進会議の他、介護保険更新申請に御本人と直接行き、入居者の実情についてお知らせしたり、市町の行事等に参加をするときは、担当者に連絡を入居者と共にする等、関係を築くように取り組んでいる。	市の担当課とは、介護保険認定更新時に利用者と一緒に出向いて、利用者の暮らしぶりを伝えている他、利用状況について相談し助言を得たり、情報交換をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時に困難事例や感染症などについて相談したり、情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束の指針、マニュアルがある。玄関は施錠していない。外出傾向のある利用者には、日常的に外のゴミステーションに生ごみを出しに行くことをお願いしたり、郵便局や、近所の店等に用事をお願いして、「いってきます」「ただいま」の声掛けを入居者、職員共に、習慣化していく努力をしている。	マニュアルに基づいて、内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出を察知した時には一緒に出かけたり、声かけの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が注意する他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や日々の介護を通じ、スピーチロックや言葉使いなど、職員同士が注意し合い、実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月2回の職員会議や勉強会を通して実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	アンケートを実施。常日頃より家族の声を傾聴している。契約、締結、解約、改定は、管理者が家族と面談し説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設け、家族への活用を呼び掛けているが、記入例はない。来訪時やご家族の行事参加時に、意見や要望を聞いている。	相談、苦情の受付体制や苦情処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時、行事参加時、電話などで家族の意見や要望を聞いている。運営にかかわる意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日常的に意見を聞いている。利用者に合わせての入浴時間や勤務時間の調整など意見を反映させている。	月2回の職員会議時に管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員からの提案で、トイレに手すりをつけるなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会等、実例に基づき実技指導を実際に行ったり、考え方等話し合う機会を設けている。新人職員には、勤務しながら実践で学べるように支援している。	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じて参加の機会を提供している。受講後は復命し、全職員が資料を閲覧できるようにしている。法人研修は、降圧剤の作用機序と副作用、心疾患について、年2回、受講している。内部研修は年間計画を作成し、年間15回、テーマ(転倒、食中毒、身体拘束、熱中症、応急手当など)を決めて、職員が交代で講師となり実施している。新人職員は日常業務の中で働きながら学べる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加できる環境にある。研修を通じて交流を深め、情報交換や訪問へ繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の目を見て話をし、職員と利用者の関係と言うよりは、一人の人間として真摯に向き合い、しっかりと思いを受け止め、信頼関係を気付くことを大切にしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安や要望をしっかりと聞き、安心に結び付けられる要素を見つけていくようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況と、家族を含めた思いに応じて、本部とも連携して検討をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家庭」という雰囲気を大切に、まず利用者主体を基本とし、出来ない所を支援するために職員が寄り添うようにしている。何かを企画する時は、共に会議(利用者司会での話し合い)を開いてみんなで検討している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や支払に来所された時には、ご本人の近況を報告すると共に、家族からのみではなく、施設側からも相談、要望を遠慮なく言い合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の情報があれば、可能な限り関係の継続を支援している。行きつけの美容院、スーパーでの買い物や、知人友人の面会、宿泊旅行、法事、墓参り、外食、同窓会出席など 家族と協力して支援に努めている。	友人や知人、親戚のひとの来訪がある他、行きつけの美容院の利用、馴染みの店での買い物、家族の協力を得ての一泊旅行や同窓会、法事への参加、墓参り、外泊、外出、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は個人の特性を把握して、利用者同士を結び付けるコーディネーターの役割を担っている。利用者主体の生活をごく自然な形で作りあげる事を考えている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、関連施設へ移動した方がいる。合同行事等で顔を合わせるときには、利用者同士の会話時間を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回、定期的に希望を聞いたり、日常のご本人の行動や言葉等を記録し、その中から思いや意向を把握するように努めている。	入居時のアセスメントで本人や家族の希望や意向を聞いている。日常の関わりの中で言葉や表情などの情報を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。月2回の職員会議の中で利用者の情報について話し合いをしている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より、生活歴等、情報収集に努め、現場で活かせるように努力している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここでの役割を中心にした生活の様子を観察し、毎日の健康チェックや、特別な事項を記録に残し、職員全員で気づきを共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の職員会議で、利用者の状況を話し合い、課題を検討している。ご家族にも相談し、必要なら、関係者とも話し合いをもち、最終的にはご本人に決定して頂き介護計画書を作成している。	月2回の職員会議時にカンファレンスを開催し、本人、家族の意見や要望、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合いを実施し、介護経過鵜を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、見直している他、要望や状態の変化に応じて現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきの大小にかかわらず、正確に記録して、職員間で情報を共有し、月2回の職員会議で、見直している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歌の好きな利用者のNHKのど自慢出演希望を、職員、利用者共に応援し、予選会に付き添う支援をしたり、絵手紙教室参加がきっかけで、地域の成人の方へ絵手紙をプレゼントしたり、成人式に参加したりもした。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段の会話から知り得たニーズに対して、ご本人や家族と相談して、可能な限り、希望に添える様に支援をしている。必要であれば、地域の方に協力して頂けるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を必ず聞くようにしている。ご家族送迎の受診時には、日ごろの様子(特別だったこと、健康チェック、排泄等)を書き出したメモを説明して渡している。受診後のかかりつけ医の所見について、ご家族と事業所共に報告をしている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の往診がある。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診結果は電話やファクスで情報を共有している。緊急時は協力医療機関と連携して対応するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的に変化や異常があれば、隣接している有料老人ホームの看護師へ相談し、指示をあおぐ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に伝えなくてはいけない情報の項目や、聞かなくてはいけない情報の項目を、表を作って、漏れの無いようにする努力をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、かかりつけ医と家族が話し合い、ご本人や家族の思いを尊重しながら、気持ちに寄り添っていけるように支援をしている。	契約時に事業所とが出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族やかかりつけ医、看護師等の関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員は応急手当や初期対応の勉強会には参加できているが、定期的な訓練というよりは、事故検討会で、実際の方法を検討、演習している。	事故報告書に記録し、その日の職員で対応策について話し合い、介護記録に記録して、申し送り時に共有している。月2回の職員会議で話し合い、一ヵ月後に再度確認して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、転倒、嚥下、食中毒、熱中症、出血、外傷の訓練をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に一回の割合で、夜間想定を含めての訓練を実施している。周囲に民家が無いという立地条件の中、分団の方から、施設内見学をしていただくように日程を調整中。近隣の企業へのアンケートを実施し、今年度は、可能な限り合同訓練を計画中。	年2回、消防署の協力を得て昼夜想定避難訓練を実施している。3ヶ月毎に事業所独自で利用者と一緒に避難経路、避難誘導、消火訓練、通報訓練をしている。運営推進会議時に消防分団長と避難訓練について話し合いをしている。近隣の銀行や郵便局などに対して合同避難訓練実施に向けてのアンケートを実施し、地域との協力体制について検討している。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初心を忘れず、馴れ合いにならないように意識をし、不適切な言葉や対応があれば、職員同士で注意しあったり、管理者が指導する。	一人ひとりの人格を尊重し、尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、その都度、管理者が指導している。職員間でも気づいた時には話し合っている。書類など個人情報の管理を徹底し、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活支援という基本を忘れることなく、どうしたいのか、何をしたいのかを、「どうしましょうか？」など、言葉を選び、自己決定ができる様に努めている。言葉がなかなか出にくい方には、選択できるように、いくつかの事項を聞くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを理解し、「できる」「やってみたい」気持ちを誘発できるような声掛けをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、女性では行事や外出時にはアクセサリーや化粧を勧めている。男性は、職員が入浴時に髭剃りを準備している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は和風か、洋風を、 昼食は、5～8種類の中から希望する物を選ぶ。食事準備盛り付け、配膳、後片付けを行う。椅子の座面の高さ調節や、食事形態、味つけ等個別に対応している。おやつを職員と作り、楽しみにつなげている。	三食とも法人よりの配食を利用している。ご飯は事業所で炊いている他、汁物は事業所の畑で採れた野菜などを使ってつくっている。昼食は選択メニュー6種類の献立から好みの物を選んで食べている。利用者と職員は同じ食卓で会話をしながらゆっくりと食事をしている。利用者は職員と一緒に下ごしらえ、調理、盛り付け、箸配り、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きをしている。季節の行事食、誕生日食、おやつづくり(ゼリー、アップルパイ、チョコフォンデュなど)、おにぎりを持っての外出などの他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録して、体重の増減によっては、ご飯やおやつの量を加減している。食事量が著しく減少した場合は、どの食材なら食べられるのか、好みの調理法はどういったものか等、職員が観察をして支援をしている。嚥下に問題がある方にはとろみを検討する。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できない方は職員と一緒に義歯をはずして歯磨き、うがい、義歯洗浄をしている。夜間は義歯をコップの中に入れてもらい洗浄剤につける。歯ブラシも夜間に洗浄、消毒している。朝の体操で、舌の状態をチェックして、必要なら舌ブラシを購入してもらえようにご家族に相談する。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して、時間を見計らって、トイレ誘導をしている。夜間、お出かけ、下痢以外は普通に布のパンツで対応している。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、起床してから、乳酸菌飲料を飲み、朝食時にはバナナ、ヨーグルトを食べ、それでも便秘が続けば、受診して医師の指示を仰ぐ。適度な運動を日課としている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	みなさん毎日が希望なので、体調悪くなければ毎日入浴している。なるべく夜という希望があり、16:30から21:30前後で希望時間になるように配慮している。	入浴は、毎日16時30分から21時30分の間可能で、利用者の希望にそって入浴できるよう支援している。状態によってはシャワー浴、清拭、足浴などの対応をしている。入浴したくない人には時間の変更や言葉かけの工夫をしている。柚子や入浴剤、バラの花湯などで気分転換をするなど、一人ひとりが入浴を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握し、室温や寝具を選ぶなどの支援をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して理解している。処方箋を薬をセットする場所へ入れて、すぐに確認できるようにしている。一回の服薬に3人の職員が関わり、間違いのないように記録をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の役割を持って頂く。他者のお世話、歌の先生、畑仕事の先生、編み物、習字、絵手紙、講演会、身の回りの買い物など、楽しみや気分転換の支援をしている。	野菜の植え付け、花の植え替え、畑の草取り、網戸の掃除、おやつづくり、調理、下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物干し・たたみ、掃除、シーツ交換、法人行事(新年会、節分、花見、敬老会、餅つき、しめ縄づくりなど)への参加、早朝体操、押し花、絵手紙、NHKのど自慢大会の予選会出場、ギターやフルートの演奏会、フリーマーケットでキャンドルなどの作品販売など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、なるべく外へ出かける様に声掛けをしたり、気持ちの良い季節では、おやつや、食事など、テーブルや椅子をセットして、屋外でとることも良くある。同窓会や、墓参り、法事、市内の講演会や教室、花見など希望に添える様に支援をしている。	花見、初詣、ホテル観賞、映画、ガラスアート展、地域の芸能祭や花火大会、敬老会、講演会への参加、幼稚園のお雛さま見学、小学生のふれあい音楽祭の見学、法人の運動会、文化祭、クリスマス会などへの参加、道の駅の餅つき、馴染みの美容院の利用、散歩、買い物などの他、家族の協力を得ての一泊旅行、法事や同窓会への参加、墓参り、外泊、外出、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望の品物を、職員と一緒にいき、レジでは自分でお金を払うように支援している。利用者主体のフリーマーケットを出店して、地域の方とのお金のやりとり、お釣りの管理、売り上げの管理、報告等を皆さんでできる様に支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話をかけている。品物が届いた時には、届いた確認と、お礼の電話をかけて頂くように声をかけている。手紙は、郵便局が近いので、自分ではがきを買って投函までできる様に支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは自由に使っている。玄関周囲に花を植えて、水やりを当番でして、季節の花を育て、花を咲かせる喜びを感じてもらっている。施設内では、季節の花を、利用者自ら活けたり、季節ごとの飾りを作ったりしている。	事業所は2階にあり、窓からは周辺の商店街や自然の風景が眺められる。リビングには季節の花が活けてあり、カレンダーや利用者の作品が飾ってある。テレビの前や窓際、廊下にソファや椅子を配置し、利用者の居場所となっている。温度や換気などに配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを点在させて、それぞれに過ごせるようにしている。廊下にもソファがあり、落ち着いた空間になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたもの(食器、写真など)を持ってきて頂くようお願いしている。チェストの上には、見慣れた自分の服を置いている	寝具、衣類、化粧品、生活用品、時計、ギター、鉢植えの花、家族写真、利用者の作品など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の物はほとんど自由に使っている。エレベーターも自由なので、職員の知らないうちに移動することが無いように気を遣いながら支援をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームパラディース

作成日：平成 27年 1月 15日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	16	○災害対策 地域との協力体制の構築	少しずつ近隣とのコミュニケーションをとれるようになっているので、具体化した計画を定期的に提案していくことを継続して行く。	参加しやすい具体的な計画を、定期的に声を掛け提案し、参加を求めている。	1年
2	15	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 全職員で応急手当、初期対応力をつける	全職員で、応急手当、初期対応力を訓練の継続でしっかりと身に付ける。	短時間でも、定期的に全員参加で演習することを継続していく。	6ヶ月
3	11	○思いや意向の把握 入居者一人一人の思いや意向の把握の工夫が足りない	チームとして一人一人の思いの把握を共通課題として、アセスメントを意識して、より深くその方と関わり、その方の思いをチームで検討していく。	分かりやすい記録様式をする。 一人一人にじっくりと関われる時間を作っていく。	6ヶ月
4	4	○運詩推進会議を活かした取り組み ご家族の参加がないわけではないが、メンバーがほぼ決まっていたので、全員に呼びかけをして、参加を呼び掛ける事をしていかなければならない。	運営推進会議をより効果的に活用するために、ご家族全員の参加を目指す。	会議前の、個々人のニュースをご家族にお渡しする時に、参加の声掛けをする。会議後は、報告をする。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。